

# 平成24年度 研究紀要 第62集

調査研究部 いきいきとした生活をするために  
—自己肯定感と人との関わりを通して—

教育研修部 活用する力を育てる学習指導の在り方  
—言語活動の充実を通して—

情報部 活用されるWebページを目指して

教育座談会 学力向上のための新たな方策を考える



千葉県安房教育研究所

平成25年3月

# 平成25年度のあゆみ



日常の所員研修の様子



教育研修部



調査研究部

情報部

## 夏季宿泊研修会



## 教研集会



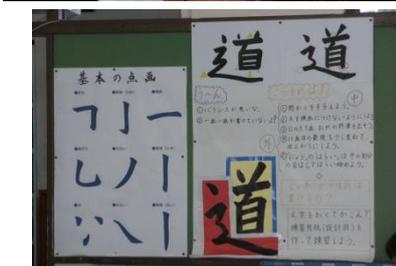
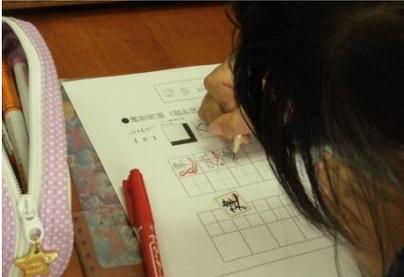
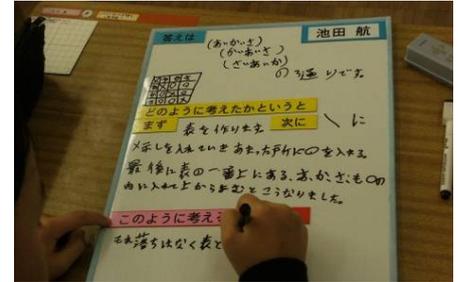
いきいきしている様子  
自らを受容し、環境を肯定的にとらえ、積極的に関わり、それによって何かが変わると自信をもっている様子。

学校教育研究協議

## 県外研修視察（埼玉大学教育学部附属小学校）



# 教育研修部検証授業



教育座談会



千葉県教育研究所連盟  
研究発表会

安房教育研究所研究発表会



## 「小さな試み」が、やがて・・・

安房教育研究所長 速水 一郎

本年度も、多くの方々のご支援をいただき、活動を終えることができました。感謝申し上げます。

さて、本研究所は、下記の運営方針に基づき活動を進めています。（一部省略）

- 安房地方の実情に即した・・・、特殊性と独自性を発揮して、その基礎的体制の確立。
- 安房地方の教育課題を探求・・・、教育諸条件の改善充実のための資料を提示し、地域の教育振興に役立つ。
- 広く各層にわたる研修活動を通して教師としての資質を高め・・・、それが日常の教育実践の向上に結びつく。
- 学校及び各教育関係機関との連携・・・、主体的研究を推進する・・・、研究の交流。
- 資料の整備・・・、広報活動を活発に行う・・・、教育現場と直結する。

この運営方針に基づいた活動は、安房地方の教育現場に大きな影響を与えてきましたし、今後も、そうあらねばならないと考えます。

しかし、研究所発足当時と現在の安房地方の教育の実情は、時代とともに変化をしてくれています。

変化の象徴として、「少子化」が一番に挙げられます。少子化による学校統合が余儀なくされ学校数の減少が進み、それに伴い教職員の高齢化（若手教員の減少）、教職員の年齢構成においてベテラン教師と新任教師が多くなるという二極化、今後は、若手教員の増加が顕著になってくることが指摘されています。

このような中、本研究所も、年間9回の所員研修をベースとして、各部の集まりをその他に設定して、地道な活動を行うとともに、新たな取り組みを考え、実践し、また、予定しています。

□ 今年度の取り組みとしては、

- 1 夏期研修の講師に、第3期中央教育審議会委員の安彦忠彦（あびこただひこ）氏に来ていただき、「新学習指導要領の趣旨と活用力の育成について」のお話を伺うことができました。研究と直結する内容であり、日常実践に役立つものであったと考えています。
- 2 教育座談会をディベート方式で行いました。2本のテーマ
  - ① 学力向上のために、学力テスト等の学校順位の公表は必要か？
  - ② 学力向上のために、学校の土曜日授業は必要か？

で、参加者も意見を述べ合い、主体的な学習の場になりました。

□ 次年度（平成25年度）は、教育座談会を土曜日に開催しようと計画しています。

これらの試みは、一過性のものであるかもしれませんが、閉塞感を打破する試みとなればとの思いです。

今年度も、研究紀要を発行することができました。今年度の取り組みを、できるだけお伝えしたいと考え作成しました。より多くの方々が目を通されることを願っています。

終わりに、ご指導、ご支援を賜りました講師の先生方、千葉県教育庁南房総教育事務所、同安房分室、千葉県教職員組合安房支部、安房地区教育委員会連絡協議会、安房郡市小中学校長会・教頭会等々、多くの関係機関の皆様にご心から御礼を申し上げます。

# 目 次

写真で見る平成24年度のあゆみ	1
はじめに 千葉県安房教育研究所 所長 速水一郎	5
目 次	6

## 第一編《調査研究部》

いきいきとした生活をするために  
—自己肯定感と人との関わりを通して—

### 第1章 本年度の調査研究

1 研究主題	8
2 主題について	8
3 研究目的	8
4 調査の内容と方法	8
5 研究経過	9

### 第2章 調査研究の分析と考察

1 「いきいきとした生活」と「自己肯定感」との関連	10
2 自己肯定感の高低による子ども達の様子	13

### 第3章 研究のまとめ

1 意識調査の結果から	24
2 「自己肯定感」にかかわる他の研究成果から	24
3 自己肯定感を高めるための指導【提言】	25
4 課題	26

《研究発表会における講師からの指導》 27

資料編	29
-----	----

## 第二編《教育研修部》

活用する力を育てる学習指導の在り方  
—言語活動の充実を通して—

### 第1章 研究の内容と方向

1 研究主題	38
2 主題について	38
3 研究の目標	39
4 研究の仮説	39
5 研究の内容	40
6 研究の経過	40

## 第2章 研究の実践

- 1 小学校国語科（書写）における実践 —第5学年「文字の組み立て方②」—
  - (1) 実践の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 1
  - (2) 手立ての考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 8
  - (3) 国語科（書写）としての成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 2
- 2 小学校算数における実践 —第6学年「場合を順序よく整理して」—
  - (1) 実践の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 3
  - (2) 手立ての考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 0
  - (3) 算数科としての成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 4

## 第3章 研究の成果と課題

- 1 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 5
  - 2 研究の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 6
- 《研究発表会における講師からの指導》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 7

## 第三編 《情報部》

活用されるWebページをめざして

### 活動の概要

- 1 主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 8
- 2 主題について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 8
- 3 研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 8
- 4 活動内容と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 8
- 5 成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6 8

## 第四編 《教育座談会》

学力向上のための新たな方策を考える

- 問題提起・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 0
- 教育座談会記録概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 1

- 平成24年度 安房教育研究所役員一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 7
- 平成24年度 千葉県安房教育研究所所員一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 8
- 千葉県安房教育研究所 研究テーマ一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 9

あとがき